

令和5年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
国語 I (Japanese I)		河野光将 (常勤)・本多典子 (常勤)	1	3	通年 3 時間	必修
授業の概要	読む・書く・話す等の社会生活で必要となる国語の資質・能力を育成する。日本の言語文化の基礎を学ぶとともに、さまざまな物事について論理的に考え、日本語で適切に表現する力を身に付ける。					
授業の形態	講義					
授業の進め方	前期 2 単位・後期 1 単位で開講する。前期・後期とも、漢字の小テストを定期的実施する。レポート等の課題を課すこともある。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 基本的な言語事項を理解することができる。 2. 論理的な文章の構成や展開を理解し、要旨を把握することができる。 3. 文学的な文章の内容や表現の特徴を踏まえ、解釈を提示することができる。 4. 古典のきまりや特有の表現を理解し、歴史的・文化的背景を踏まえながら読むことができる。 5. 読み手を意識し、表現方法を工夫して文章を書くことができる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。					
講義の内容						
項目		目標	時間			
〔前期〕						
ガイダンス・春季課題確認テスト		授業の概要について理解する。	2			
【現代の国語】						
川上未映子「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」		読書の意義について考える。	4			
田中真知「ありのままの世界は見えない」		引用や比較の手法に注目しながら、論理的な文章を読解する。	6			
野元菊雄「言語は色眼鏡である」		読み手を意識した言語表現について理解を深める。	6			
黒崎政男「ネットが崩す公私の境」		現代の諸課題について理解を深める。	8			
ワールド・カフェ		対話の創造性について理解を深める。	4			
【言語文化】						
小川洋子「千年の時が与えてくれる安堵」		言語文化を学ぶ意義について考える。	4			
清少納言「枕草子」		言葉の違いを意識しながら、古典を鑑賞する。	6			
「和歌十首」／「伊勢物語」		歴史的・文化的背景を踏まえながら、代表的な古典を鑑賞する。	8			
芥川龍之介「羅生門」／「今昔物語集」		構成や展開に注目しながら、物語を読解する。	8			
「故事二編」／「十八史略」		言葉の違いを意識し、歴史的・文化的背景を踏まえながら、古典を鑑賞する。	4			
〔後期〕						
【現代の国語】						
谷島貫太「人がアンドロイドとして甦る未来」		科学技術と人間の関わりについて理解を深める。	4			
関礼子「自然をめぐる合意の設計」		合意形成のあり方について考える。	6			
マイクロディベート		論理的な表現方法について理解を深める。	4			
【言語文化】						
三崎亜記「ゴール」		小説の多様な表現方法とその効果について考える。	4			
ティム・オブライエン (村上春樹訳)「待ち伏せ」		小説の内容や表現の特徴を整理し、解釈をまとめる。	6			
榎未知子「野焼」		言語文化と社会生活の関係について考える。	4			
【総合】						
探究的な学び		「現代の国語」「言語文化」で学んだことを踏まえて、自ら課題を設定してレポート等にまとめる。	2			
			計 90			

学業成績の評価方法	定期試験の得点、授業中の小テスト・課題、授業への取組状況をそれぞれ 60 %、30 %、10 % の比重で評価して算出する。中間試験は実施しない。状況により再試験を行うこともある。			
関連科目				
教科書・副読本	教科書:「新 言語文化」(三省堂)・「精選 現代の国語」(三省堂)、参考書:「ビジュアルカラー国語便覧 改訂版」(大修館書店)、補助教材:「ポイント整理 ブラッシュアップ 常用漢字 三訂版」(明治書院)			
評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	第 1 学年で習得すべき漢字の読み書きや語句の意味が、9 割以上理解できる。	第 1 学年で習得すべき漢字の読み書きや語句の意味が、8 割程度理解できる。	第 1 学年で習得すべき漢字の読み書きや語句の意味が、6 割程度理解できる。	第 1 学年で習得すべき漢字の読み書きや語句の意味が、半分以上理解できない。
2	評論文の構成や展開を整理しながら、論旨を的確に把握できる。	評論文の構成に注目しながら、論旨を把握できる。	評論文の流れに関心を持ち、論旨を概ね把握できる。	評論文の話題に関心が持てず、論旨が半分以上把握できない。
3	小説文の語りのあり方を理解するとともに、登場人物の心情や場面の状況を整理しながら、解釈をまとめることができる。	小説文の登場人物の心情や場面の状況に注目しながら、解釈をまとめることができる。	小説文の登場人物や場面に関心を持ち、解釈のアイデアを箇条書きにすることができる。	小説文の登場人物や場面に関心が持てず、あらすじをまとめることができない。
4	古典の文語や訓読のきまりを理解し、歴史的・文化的背景を踏まえながら、代表的な作品を読むことができる。	古典の文語や訓読のきまりを理解し、歴史的・文化的背景に関心を持ちながら、代表的な作品を読むことができる。	古典のきまりに関心を持ちながら、代表的な作品を読むことができる。	古典特有の表現に関心が持てず、作品を十分に読むことができない。
5	与えられたテーマや条件の意図を汲み、段落構成を工夫して文章を書くことができる。	与えられたテーマや条件を理解し、段落構成を工夫して文章を書くことができる。	与えられた条件を守り、段落構成を考えて文章を書くことができる。	与えられた条件を守らず、段落構成を考えて文章を書くことができない。

令和 5 年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
地理歴史 I (Geography & History I)		三宅彦大 (非常勤)	1	2	通年 2 時間	必修
授業の概要	地表上に展開するさまざまな事象に関する基礎的な知識、現代人として必要とされる多様な視点を理解しようとする姿勢、世界や地域における諸問題に関心を持つとともにその解決に取り組む能力を、地理的見方、考え方について学ぶことを通じて身につける。					
授業の形態	講義					
授業の進め方	資料を読み取り、グラフや地図を作成するといった作業をまじえた講義を受講するとともに、計画的・継続的に演習をおこなって、世界の国々などの地名に関する知識の定着をはかる。予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 世界の自然環境の多様性とむすびつきのあり方について理解し、説明することができる。 2. 世界の社会・文化環境の多様性とむすびつきのあり方について理解し、説明することができる。 3. 国や大陸レベルで、地域の特徴を理解し、説明することができる。 4. 地球規模の課題について理解し、自分なりの見解をもつことができる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
導入	1 年間の目標、授業内容・評価方法を理解する。					2
地理的見方・考え方の基礎	統計資料や地図を通じて私たちが生活する世界の姿や地域の特徴を読み取る技能を身につける。					6
人々を取りまく地形	地球規模の地形の成り立ちについて系統的に学習した上で、局地的な地形と人びとの生活との関係について理解する。					6
演習.1	これまでに学んだことのまとめと確認を行う。					2
人々を取りまく気候	大気の大循環、世界の気候区分について理解する。					6
資源と産業	資源・産業の分布と特徴に関する知識を身に付ける。					6
演習. 2	これまでに学んだことのまとめと確認を行う。					2
諸地域における生活文化	国家規模・州大陸規模で諸地域の地理的特徴と人びとの生活との関係を理解する。					14
演習. 3	これまでに学んだことのまとめと確認を行う。					2
地球的課題の地理的考察	地球的課題を概観し、その種類・概要を理解する。					4
地域の課題の地理的考察	個別の地域における諸問題について学び、その構造・解決策等を考察する。					6
演習. 4	これまでに学んだことのまとめと確認を行う。					2
学習をおわるにあたって	地理分野の学習のまとめ、公民分野・歴史分野への展望を行う。					2
						計 60
学業成績の評価方法	定期試験の得点 (70 %)、提出物や授業における発言の内容に基づく平常点 (30 %) で評価する。定期試験の得点が 60 点未満の者については、再試験を課すことがある。					
関連科目	地理歴史Ⅱ・公民Ⅰ・公民Ⅱ・歴史学Ⅰ・地理学					
教科書・副読本	教科書: 「地理総合－世界に学び地域へつなぐ－ (検定教科書)」 菊地俊夫ほか (二宮書店), 副読本: 「詳解現代地図 (検定教科書)」 (二宮書店)					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	世界の自然環境の多様性とむすびつきのあり方について、深く関心を持ったうえで考察し、自分なりの見解を示すことができる。	世界の自然環境の多様性とむすびつきのあり方について、教科書や補助教材における用語や図表等の資料の示すところを正しく理解できる。	世界の自然環境の多様性とむすびつきのあり方についての基礎的な知識を身につけることができる。	世界の自然環境の多様性とむすびつきのあり方についての基礎的な知識を理解できない。
2	世界の社会・文化環境の多様性とむすびつきのあり方について深く関心を持った上で考察し、自分なりの見解を示すことができる。	世界の社会・文化環境の多様性とむすびつきのあり方について、教科書や補助教材における用語や図表等の資料の示すところを正しく理解できる。	世界の社会・文化環境の多様性とむすびつきのあり方についての基礎的な知識を身につけることができる。	世界の社会・文化環境の多様性とむすびつきのあり方についての基礎的な知識を理解できない。
3	国や大陸レベルで、地域の特徴について深く関心を持った上で考察し、自分なりの見解を示すことができる。	国や大陸レベルで、地域の特徴について、教科書や補助教材における用語や図表等の資料の示すところを正しく理解できる。	国や大陸レベルで、地域の特徴についての基礎的な知識を身につけることができる。	国や大陸レベルで、地域の特徴についての基礎的な知識を理解できない。
4	地球規模の課題について、深く関心を持った上で考察し、自分なりの見解を示すことができる。	地球規模の課題について、教科書や補助教材における用語や図表等の資料の示すところを正しく理解できる。	地球規模の課題についての基礎的な知識を身につけることができる。	地球規模の課題についての基礎的な知識を理解できない。

令和 5 年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
基礎数学 I (Elementary Mathematics I)		臼井智 (常勤)・矢吹康浩 (常勤)	1	4	通年 4 時間	必修
授業の概要	様々な自然現象や工学現象を数式を用いて表現し、解析するための基礎として、数、式、関数、場合の数や数列に関する理解を深め、問題演習を通して基礎的な計算能力を身につけるとともに、数学的基礎知識を活用して現象を解析する能力を養う。					
授業の形態	講義					
授業の進め方	講義を中心とするが、理解を深めるための問題演習も行う。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 数式の展開、因数分解などの基礎的な数式変形ができる。 2. 方程式・不等式の解の意味を理解し、適切な方法（因数分解や解の公式、グラフの活用）を活用して、解を求めることができる。 3. 初等的な関数の性質を理解し、そのグラフが描けるとともに、グラフを応用して関数の最大値・最小値等を求めることができる。 4. 順列・組合せの概念と計算法を理解し、適切な方法を用いて、場合の数を求めることができる。 5. 数列の概念や具体的な数列（等差数列・等比数列）の性質を理解するとともに、具体的な数列の総和を求めることができる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
整式の計算	整式の加法、減法、乗法、因数分解、除法などの基本的な数式変形ができる。					15
いろいろな数と式	分数式の四則計算ができるとともに、数概念（整数、有理数、無理数、実数、複素数）を理解し、それらの四則計算ができる。					15
方程式	2次方程式や高次方程式、連立方程式などの基本的な方程式を解くことができる。適切な方法を用いて等式を証明することができる。					15
不等式	不等式とその解の意味を理解し、不等式の性質を活用して、1次不等式、2次不等式、高次不等式を解くことができる。					10
2次関数	2次関数の意味とその性質を理解するとともに、2次関数のグラフを利用して関数の最大値・最小値を求めることができる。さらに、2次関数のグラフを2次不等式の解法に活用することができる。					14
いろいろな関数	べき関数、分数関数、無理関数とその性質を理解し、それらのグラフを描くことができる。また、逆関数の概念を理解し、与えられた関数の逆関数を求めることができる。					10
指数関数	累乗根や分数乗、負の数乗の意味を理解し、基本的な指数計算ができる。また、指数関数の性質を理解し、そのグラフを描くことができる。					8
対数関数	対数の意味とその性質を理解し、基本的な対数計算ができる。また、対数関数の意味とその性質を理解し、そのグラフを描くことができる。					9
場合の数	順列や組合せの意味と性質を理解し、それらを活用して場合の数を求めることができる。					13
数列	等差数列、等比数列など基本的な数列の性質を理解し、一般項や総和の計算ができる。また、総和の記号（シグマ）の意味と性質を理解し、それらを与えられた数列の和の計算に活用することができる。					11
						計 120
学業成績の評価方法	4回の定期試験の得点と、課題や授業中に行う小テスト等の取り組みを総合して評価する。なお、定期試験と課題や小テスト等の成績の比率を4：1とする。					
関連科目	基礎数学Ⅱ・微分積分・線形代数Ⅰ					
教科書・副読本	教科書:「新 基礎数学 改訂版」高遠節夫 (大日本図書), 副読本:「新 基礎数学問題集 改訂版」高遠節夫 (大日本図書)					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	数学的な現象を数式を用いて表現し、整式の展開、因数分解、除法などの基礎的な計算方法を自ら選択して活用することができる	整式の展開、因数分解、除法などの基礎的な計算方法を、組み合わせて活用することにより、数学的問題を解くことができる	問題文や教科担当者の指示に従って、整式の展開、因数分解、除法などの基礎的な計算ができる	整式の展開、因数分解、除法などの基礎的な計算ができない
2	数学的な現象を方程式や不等式を用いて表現し、適切な計算方法を選択して解を求めることにより、現象を解析することができる	因数分解、解の公式、グラフの活用などの手法を自ら選択して、与えられた方程式や不等式の解を求めることができる	因数分解、解の公式、グラフの活用など、指示された計算方法を用いて、初等的な方程式や不等式の解を求めることができる	初等的な方程式や不等式が解けない
3	数学的な現象を初等的な関数を用いて表現し、関数の性質と方程式、不等式の解法とを組み合わせて活用することにより、現象を解析することができる	関数のグラフを利用して、初等的な関数の最大値や最小値などを求めることができる	指示された方法により、初等的な関数のグラフを描くことができる	初等的な関数のグラフを描くことができない
4	数学的な現象を場合の数を用いて表現し、適切な計算方法を自ら選択して活用することにより、現象を解析することができる	順列・組合せの計算を活用することにより、指定された場合の数を求めることができる	問題文や教科担当者の指示に従って、順列・組合せの計算ができる	順列・組合せの計算ができない
5	数学的な現象を数列を用いて表現し、総和記号(シグマ)などを活用して、現象を解析することができる	総和記号(シグマ)の意味と計算公式を理解し、指定された数列の和の計算に活用できる	等差数列・等比数列の意味を理解し、指示された計算方法により、その一般項や和を求めることができる	具体的な数列(等差数列・等比数列)が理解できない

令和 5 年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
基礎数学 II (Elementary Mathematics II)		竹居賢治 (常勤)	1	2	通年 2 時間	必修
授業の概要	工学の専門科目を学ぶ上で必要不可欠な数学の知識・技能のうち「三角関数」と「図形と式」について学習する。三角関数とそのグラフ・加法定理、点と直線および 2 次曲線の方程式とその性質について理解を深め、それらを的確に活用する技術を修得する。					
授業の形態	講義					
授業の進め方	講義を中心とする。また、理解をより深めるために課題を提出してもらう。予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 三角比の意味を理解し、図形の問題に活用できる。 2. 三角関数の意味を理解し、それらの相互関係を活用できる。 3. 三角関数のグラフを理解し、それらを活用できる。 4. 三角関数の加法定理を理解し、それらを活用できる。 5. 2 点間の距離、内分点の意味を理解し、図形問題に活用できる。 6. 直線の方程式を理解し、図形問題に活用できる。 7. 円の方程式を理解し、図形問題に活用できる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
三平方の定理とその応用	三平方の定理を理解し、活用できるようにする。					2
三角比とその応用	三角比の意味を理解し、その計算技術を修得する。三角比の基本的な性質を理解し、それを図形問題に応用する技術を修得する。					8
三角形への応用 1	正弦定理と余弦定理を理解し、活用できるようにする。					6
三角形への応用 2	三角比を用いた三角形の面積の導出法を理解する					2
三角関数 1	一般角と弧度法について理解し、一般の三角関数の意味とその性質を理解する。					8
三角関数 2	三角関数のグラフの作成法を修得する。					4
加法定理とその応用 1	加法定理の意味を理解し、加法定理を用いて三角関数の値を算出する技術を修得する。2 倍角の公式、半角の公式を修得する。					10
加法定理とその応用 2	三角関数の合成について理解すると共に、合成を用いたグラフの作成法を修得する。					6
加法定理とその応用 3	和積公式、積和公式を導出する方法を修得する。					4
点と直線 1	2 点間の距離や内分、外分の意味を理解し、それを図形問題に応用する技術を修得する。					4
点と直線 2	直線を方程式で表現する方法と 2 直線が平行、垂直であるための条件を理解し、それを図形問題に応用する技術を修得する。					2
円の方程式	円を方程式で表現する方法について理解する。					4
						計 60
学業成績の評価方法	定期試験の得点と課題受理、取り組み状況により評価する。定期試験の点数の割合を 80 %、課題の受理、取り組み状況による割合を合わせて 20 % とする。また、状況によっては追試を実施することがある。					
関連科目						
教科書・副読本	教科書: 「新 基礎数学 改訂版」高遠節夫 (大日本図書), 副読本: 「新 基礎数学問題集 改訂版」高遠節夫 (大日本図書)					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	図形の性質や特徴を調査するために、正弦定理や余弦定理を自ら選択して活用することができる	問題文や教科担当者の指示にしたがって、正弦定理や余弦定理を活用することができる	問題文や教科担当者の指示にしたがって、三角比の値を求めることができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、三角比(サイン、コサイン、タンジェント)の値を求めることができない
2	三角関数の関係式を自ら選択して活用することにより、指定された等式を証明することができる	三角関数の関係式を活用して、与えられた三角関数(サイン、コサイン、タンジェント)のうちの1つの値から、他の2つの三角関数の値を求めることができる	単位円を活用して、90度より大きい角に対する三角関数の値を求めることができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、三角関数の値を求めることができない
3	三角関数のグラフを活用して、三角方程式や三角不等式を解くことができる	与えられた関数の式を観察して平行移動や振幅、周期の情報を抽出し、様々な三角関数のグラフを描くことができる	基本となる三角関数(サイン、コサイン、タンジェント)のグラフを描くことができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、基本となる三角関数のグラフを描くことができない
4	加法定理を活用して、2倍角の公式、半角の公式、積和公式、和積公式などを、自ら導くことができる	加法定理を活用して、三角形の辺の比からは算出できない三角関数の値を求めることができる	三角関数の加法定理を説明できる	三角関数の加法定理に述べられた式(3種類)を覚えていない
5	線分で構成された図形(三角形や正方形など)の特徴や性質を調査するために、2点間の距離や内分点の算出方法を活用することができる	指示された線分の長さや内分点の座標を求めることができる	内分点の意味を説明することができる	内分点の意味を説明することができない
6	線分で構成された図形の特徴や性質を調査するために、直線の平行条件や垂直条件を活用することができる	直線の平行条件や垂直条件を活用して、与えられた情報から直線の方程式を構成することができる	通過点の座標と傾きの情報を利用して直線の方程式を構成することができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、直線の方程式を構成することができない
7	円や円弧で構成された図形の特徴や性質を調査するために、円の方程式や直線の方程式、それらの連立方程式の解法を活用することができる	平方完成を活用して、変数 x と y の2次等式から円の中心の座標と半径を求めることができる	中心の座標と半径の値から、円の方程式を構成することができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、円の方程式を構成することができない

令和 5 年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
物理 I (Physics I)		藏本武志 (常勤)	1	2	通年 2 時間	必修
授業の概要	各工学コースの専門科目を学ぶ際に必須となる基礎事項を学ぶ。自然現象の原理・法則の学習を通して、物理的思考力の養成をはかる。					
授業の形態	講義					
授業の進め方	講義および理解を深めるための問題演習を行う。 予習，復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 運動を表す、変位・速度・加速度について、それらの関係も含め理解できる 2. いろいろな運動を基礎概念（運動方程式など）と結びつけて理解できる 3. 力積・運動量・仕事・エネルギーに関係する計算問題ができる					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
ガイダンス	授業の概要と進め方・評価方法などを説明する。					1
直線運動	速度・加速度・位置の三つの量について、時刻との関係、そのグラフ、三つの量とグラフの関係について理解し、計算問題ができるようにする。					9
単位の換算	国際単位系の単位とそれ以外の単位の換算ができるようにする。					2
演習・実習	直線運動・単位の換算などの演習または実習を行う。					2
運動の法則	運動の第 1 法則から第 3 法則について理解し、計算問題ができるようにする。					2
いろいろな力	重力・万有引力・弾性力について理解し、計算問題ができるようにする。					4
運動方程式のつくり方	運動方程式をつくれるようにし、計算問題ができるようにする。					2
重力下での運動	重力のみ働く場合の鉛直運動について理解し、計算問題ができるようにする。					4
演習						4
摩擦力	摩擦力および摩擦力が働く場合の運動について理解し、計算問題ができるようにする。					4
力積と運動量	力積と運動量・それらの関係・運動量保存の法則について理解し、計算問題ができるようにする。					4
仕事とエネルギー	仕事とエネルギー・それらの関係・力学的エネルギー保存の法則について理解し、計算問題ができるようにする。					4
演習・実習	摩擦力・力積と運動量・仕事とエネルギーなどの演習または実習を行う。					2
ベクトルとスカラー	ベクトルとスカラーについて理解し、力や速度などベクトルの和・差・成分を求められるようにする。					6
平面内の運動	水平面上での物体の衝突・水平投射・斜方投射について理解し、計算問題ができるようにする。					6
演習						4
						計 60
学業成績の評価方法	4 回の定期試験の得点、取組状況点を総合して評価する。なお、定期試験の得点と取組状況点の比率は 7 5 : 2 5 とする。					
関連科目	物理 II・物理 III・応用物理 I・応用物理 II					
教科書・副読本	教科書: 「高専の物理 第 5 版」和達 三樹監修、小暮 陽三編集 (森北出版), 副読本: 「高専の物理問題集 第 3 版」田中 富士男編著、大多喜 重明、岡田 克彦、大古殿 秀穂、工藤 康紀著 (森北出版)					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	運動を表す、変位・速度・加速度に関わる応用問題を解くことができる。	運動を表す、変位・速度・加速度の計算ができ、問題を V-t グラフなどを利用して解くことができる。	運動を表す、変位・速度・加速度の意味を理解し、それらの基本的な計算を行うことができる。	運動を表す、変位・速度・加速度の意味は理解できるが、基本的な計算を行うことができない。
2	いろいろな直線運動の応用問題を力学の 3 法則を用い解ける。	いろいろな直線運動を基礎概念 (運動方程式など) と結びつけて理解し、計算できる。	力の性質、運動の 3 法則、いろいろな直線運動を理解し、基礎問題が解ける。	運動の 3 法則は理解できるが、簡単な計算ができない。
3	力積・運動量・仕事・エネルギーおよび平面・空間での速度・運動量・仕事に関わる応用問題を解くことができる。	力積・運動量・仕事・エネルギー相互の関係を結びつけて理解し、ベクトルを用いた平面・空間での運動の基礎問題が解ける。	力積・運動量・仕事・エネルギーの意味を理解し、基礎問題が解けるが、ベクトルを用いて平面・空間での運動を表す事ができない。	力積・運動量・仕事・エネルギーの意味は理解できるが、基本的な計算を行うことができない。

令和5年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員		学年	単位	開講時数	種別
化学 I (Chemistry I)		高橋龍也 (常勤)・豊島雅幸 (常勤)		1	2	通年 2 時間	必修
授業の概要		各工学コースに共通して必要な化学に関する基礎知識を習得し、基礎的な化学計算を確実に実践することができるように実験等を通して理解を深める。					
授業の形態		講義					
授業の進め方		講義を中心として、実験も行わせる。理解を深めるための問題演習を適宜行う。予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標		1. 基本的な化学変化を化学反応式で表し、量的な関係が正しく求められることができる。 2. モル計算、気体及び溶液に関する基本的な化学計算が正しく実践することができる。 3. 元素の周期表及び化学結合に関する基礎知識を身につけることができる。					
実務経験と授業内容との関連		なし					
学校教育目標との関係		D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容							
項目		目標					時間
ガイダンス		化学 I を学ぶにあたって					2
物質の構成		物質を構成する原子・分子・イオン並びに単体・化合物・混合物等を理解すること。					4
原子の構造		原子の構造と電子配置について理解すること。					4
化学式とイオン式		物質を化学式で表現し、イオン式も理解すること。					2
分子量と物質質量		分子量や物質質量に関わる計算を理解すること。					4
化学反応式と物質の量的関係		化学変化を反応式で表現し、量的関係を求めること。					6
気体		状態変化に伴う気体の状態量を求めること。					6
実験①気体の性質		酸素を発生させる化学反応を行い、気体の性質と化学反応式に関する理解を深めること。					4
実験②定比例の法則		加熱に伴う結晶水の変化を調査し、物質の変化について定比例の法則を通して理解を深めること。					4
溶液		溶質・溶媒の量と溶液の濃度を求め、結晶水を含む溶解度に関する理解を深めること。					8
元素の周期表		周期表と元素の性質について理解すること。					6
化学結合		化学結合についての基本を理解すること。					10
							計 60
学業成績の評価方法		定期試験 (4 回) 40 %、提出物 (実験レポート・演習課題) 40 %、取組状況 20 % の比率で評価する。					
関連科目							
教科書・副読本		教科書: 「ダイナミックワイド図説化学」竹内 敬人 (東京書籍), 副読本: 「例題で学ぶ基礎化学」笹本 忠 (森北出版)					
評価 (ルーブリック)							
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)			
1	化学反応式を用いて物質質量から質量、体積への変換をすることができる。	周期表を理解し化学式の分子量、物質質量を理解し、これらを用いて化学反応式における各物質の物質質量を算出することができる。	化学式を正しく理解し、正しい化学式を作ることができる。	化学式を書くことができず、反応式を成立させることができない。			
2	問題文の条件より、化学定数を算出できる。また化学的条件を正しく理解し条件に応じた解答を導くことができる。	公式を正しく理解し、一般的な問題を解くことができる。	公式への代入や解答への誘導を用いることで問題を解くことはできる。	ボイル・シャルルの法則など、公式への代入ができない。			
3	電子配置より結合を理解し、化学式を導き出すことができる。	各原子における陽子、中性子、電子の数および配置を理解し、イオンや原子量を求めることができる。	周期表の意味を理解し、電子配置よりイオンを理解することができる。	周期表を書くことはできるが、電子配置、電子軌道を理解していない。			

令和5年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別	
保健体育 I (Health & Physical Education I)		門多嘉人 (常勤)・坂本宗司 (常勤)・小高晃 (非常勤)	1	3	通年 3 時間	必修	
授業の概要	心と体を一体としてとらえ、運動の合理的な実践を通して、運動技能を養い、運動の楽しさや喜びを味わう。また、社会生活における健康・安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理し、改善していくことの意義を科学的に学ぶ。						
授業の形態	実験・実習						
授業の進め方	実技を通して各種目の基本技術を学びながら、ゲームができるようになる。保健では健康に関する知識の理解を深め、その理解度を確認するために小テストを行う。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。						
到達目標	1. 主体的に授業へ取り組むことができる。 2. 自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力・協調する態度を身につけることができる。 3. バレーボール・バスケットボール・サッカー・水泳の基本技術を身につけ、体力を高めることができる。 4. ルールやマナーを守りながら、自ら安全に留意して行動できる。 5. 健康に関する知識を正しく理解できる。						
実務経験と授業内容との関連	なし						
学校教育目標との関係	B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。						
講義の内容							
項目	目標					時間	
実技	ガイダンス	学習の進め方、評価の仕方および体育施設の利用方法が理解できる					2
	集団行動	集団行動のおもな行動様式を身につけ、集団の約束や決まりを守って行動することができる					2
	体づくり運動	体づくり運動の理論と実技を学習する					2
	体力テスト	新体力テストを実施し、各自の体力が把握できる					4
	バレーボール I	ガイダンス (歴史・施設と用具) オーバーハンドパス・アンダーハンドパス、サーブとレシーブ、トスからのスパイクとブロック、三段攻撃、技能テスト、ルールと簡易ゲーム					8
	水泳 I	ガイダンス (歴史、施設と用具) 水慣れ、クロールと平泳ぎ、泳力テスト					12
	サッカー I および長距離走	ガイダンス (歴史・施設と用具) ボール慣れ・パスとドリブル、リフティング・パスワーク、ドリブルワークとシュート・パスワークとシュート、少人数でのディフェンス・オフエンス、技能テスト、ルールと簡易ゲーム 長距離走					16
	バスケットボール I および長距離走	ガイダンス (歴史・施設と用具) ボール慣れとパスワーク、ランニングシュット、ドリブルシュット、2メン速攻、技能テスト、ルールと簡易ゲーム					14
						計 60	
	保健	ガイダンス	学習の進め方、評価の仕方が理解できる				
現代社会と健康		「健康の考え方」「現代の感染症とその予防」「生活習慣病などの予防と回復」「精神疾患の予防と回復」について学習し、現代における健康課題とその予防及び対策について理解できる 確認テスト① (学習ノートの提出を含む)					14
安全な社会生活		「安全な社会づくり」「応急手当」について学習し、交通安全を含めた安全な社会づくりと、心肺蘇生法等の応急手当について理解できる					2
生涯を通じる健康		「生涯の各段階における健康」「労働と健康」について学習し、ライフステージ、労働の形態や環境に伴った健康及び安全の課題について理解できる					2
健康を支える環境づくり		「環境と健康」「食品と健康」「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」「様々な保健活動や社会的対策」「健康に関する環境づくりと社会参加」について学習し、環境・食品の問題、保健・医療制度及び保健活動や対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解できる 確認テスト② (学習ノートの提出を含む)					4
					2		
					計 30		
					計 90		

学業成績の評価方法	①授業への取組み 50 %、②学習意欲と学習態度 30 %、③技術・技能・習熟度 10 %、④保健小テスト 10 %			
関連科目				
教科書・副読本	教科書:「現代高等保健体育」衛藤隆、友添秀則ほか (大修館書店), 副読本:「図説 現代高等保健」大修館書店編集部 (大修館書店)・「ステップアップ高校スポーツ 2023」高橋健夫ほか (大修館書店)			
評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	全ての授業で主体的に取り組んでいる。	主体的に授業へ取り組んでいる。	基準以内であるが、授業への取組みが良くない。	基準を超えており、授業への取組みが悪い。
2	自己のとりべき行動を判断し、仲間と協力・協調することができる。	仲間と協力・協調する態度を身につけることができる。	教員の指示に従って、仲間と協力・協調する態度を身につけることができる。	仲間と協力・協調する態度を身につけることができない。
3	基本技術を発展させた技能を身につけ、日常生活に応用して体力を高めることができる。	運動の基本技術を身につけ、体力を高めることができる。	教員の指示に従って、運動の基本技術を身につけ、体力を高めることができる。	運動の基本技術を身に付けることができず、体力を高めることができない。
4	ルールやマナーを守りながら、自己及び仲間の安全に留意して行動することができる。	ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができる。	教員の指示に従って、ルールやマナーを守りながら、安全に留意して行動することができる。	ルールやマナーを守ることができず、安全に留意して行動することができない。
5	健康に関する知識を正しく理解し、日常生活に活用することができる。	健康に関する知識を正しく理解できる。	健康に関する知識を理解できる。	健康に関する知識を理解できない。

令和 5 年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
芸術 (Music)		森由美子 (非常勤)	1	1	半期 2 時間	必修
授業の概要	音楽教育の原点である「歌う」、「聴く」、「作る」の基礎知識を学ぶ。					
授業の形態	演習					
授業の進め方	ソルフェージュ (読譜力) の向上と名曲鑑賞、譜面制作の実践を行う。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 音楽で使用される記号を理解し、譜面 (音程・リズム) を歌唱・演奏ができる。 2. オーケストラの演奏について、その楽器や奏法について簡単な説明ができる。 3. グループでの楽器の演奏、歌唱、創作 (作曲) などにより音楽に積極的に関わることができる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
導入	講義の概要について説明し音楽の授業の意義を理解する。校歌を正しく歌唱できるようにする。					2
ソルフェージュと聴音	音符、休符、拍子、変位記号について学ぶと同時にその練習を行い、声や楽器で正しく表現できるようにする。 聴音の練習により、ピアノの音を正しく聴き取れ、楽譜に書けるようにする。					10
簡単な音楽理論の解説	調整、音階、音程など簡単な音楽理論の習得を目標とする。					4
オーケストラの楽器について	古今東西の楽曲を鑑賞し、オーケストラの楽器や奏法についての理解を深める。					2
アンサンブル	弦・管・打・鍵盤楽器、リコーダー等の奏法を練習し、楽器演奏の技術を習得する。 数名のグループで、グループ毎に作成した譜面を使い、合奏を通して演奏の楽しさを学ぶ。					12
						計 30
学業成績の評価方法	1. 実技の評価 (1) 歌唱力、(2) 聴音、(3) 楽器合奏 2. レポート (1) 音楽鑑賞の感想文 (2) 作譜などの課題					
関連科目						
教科書・副読本	その他: 必要に応じてプリント等を配布し教材とする。					
評価 (ルーブリック)						
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
1	譜面をみて正確に歌える、もしくは演奏できる。	譜面をみて 8 割程度歌える、もしくは演奏できる。	譜面を見て 6 割程度歌える、もしくは演奏できる。	譜面を見て殆ど歌えない、もしくは演奏できない。		
2	オーケストラで使用される楽器や奏法について正確に説明ができる。	オーケストラで使用される楽器や奏法について 8 割程度説明ができる。	オーケストラで使用される楽器や奏法について 6 割程度説明ができる。	オーケストラで使用される楽器や奏法について説明できない。		
3	グループでの楽器の演奏、歌唱、創作など、積極的に関わることができる。	グループでの楽器の演奏、歌唱、創作など、8 割程度関わることができる。	グループでの楽器の演奏、歌唱、創作など、6 割程度関わることができる。	グループでの楽器の演奏、歌唱、創作など、積極的に関わることができない。		

令和 5 年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
英語 I (English I)		乾展子 (常勤/実務)・丸山亜沙子 (非常勤)	1	4	通年 4 時間	必修
授業の概要	日常的な話題・国際的な話題など、様々なテーマを扱った基礎的な英文を題材に、読む・書く・聴く・話すことの言語運用能力を総合的に伸ばす。					
授業の形態	講義					
授業の進め方	文部科学省検定教科書を用いて、話の主旨、書き手や話し手の意向を理解するための活動、および自分の考えをまとめて英語で表現する活動を行う。また、演習問題を用いて、内容理解と表現力を高める。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 基礎的・基本的な語彙を習得できる。 2. 基礎的・基本的な構文・文法を習得できる。 3. 平易な英文の趣旨を理解できる。 4. 簡単な内容を英語で表現できる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
Lesson 1 The Amazing Scenery	5 文型について理解する。					4
Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate	「チョコレート」の歴史」の英文について理解する。 that 節を伴う 3 文型、比較表現について理解する。					12
Lesson 3 The Secret of Top Athletes	「トップアスリートの秘密」の英文について理解する。 現在完了形、現在完了進行形、過去完了形について理解する。					12
Lesson 4 Evolving Airplanes	「進化する飛行機」の英文について理解する。 助動詞、受動態、助動詞＋受動態について理解する。					12
Lesson 5 The Symbol of Peace	動名詞、不定詞、形式主語について理解する。					8
Lesson 6 Serendipity	「セレンディピティ」についての英文を理解する。 分詞の後置修飾、知覚動詞、使役動詞について理解する。					12
Lesson 7 The Secrets Hidden in Vermeer's Works	「フェルメールの作品」についての英文を読解する。 関係代名詞（主格、目的格、所有格）について理解する。					12
Lesson 8 Endangered Species in the World	「絶滅危惧種」についての英文を理解する。 前置詞＋関係代名詞、関係副詞、関係代名詞・関係副詞の非制限用法について理解する。					16
Lesson 9 The Dream of Special Makeup	「特殊メイク」についての英文を理解する。 条件を表す副詞節、仮定法過去について理解する。					16
Lesson 10 Purifying Powder	「小田兼利の発明品」についての英文を理解する。 関係詞 what、強調構文、分詞構文、疑問詞＋ to 不定詞を伴う 4 文型について理解する。					16
					計 120	
学業成績の評価方法	定期試験 70 %、取組点 30 %（小テスト、発表、リスニングその他）。状況により再試験を行うことがある。					
関連科目						
教科書・副読本	教科書: 「APPLAUSE English Communication I」（開隆堂）、副読本: 「Listening Pilot Level 2 新訂版」金谷憲監修（東京書籍）、参考書: 「Seed 総合英語（四訂新版）」（文英堂）、補助教材: 「Word Navi 英単語・熟語 3000」（啓林館）					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	学習した基礎的・基本的な語彙を日本語の意味を見て、英語で正確に書くことができ、口頭でも答えることができる。	学習した基礎的・基本的な語彙を見る・聞くの両方においてその日本語の意味が分かる。また、日本語に当たる英語の語彙を口頭または書いて答えることができる。	学習した基礎的・基本的な語彙の日本語の意味が分かる。	学習した基礎的・基本的な語彙の日本語の意味が分からない。
2	基礎的・基本的な構文・文法の使われ方と意味を正確に理解し、説明することができる。	基礎的・基本的な構文・文法の使われ方と意味を自ら参考書を読んだり調べることで正確に理解できる。	基礎的・基本的な構文・文法の使われ方と意味が教員の説明を聞いて理解できる。	基礎的・基本的な構文・文法の使われ方と意味が教員の説明を聞いても理解できない。
3	平易な英文の内容を正確に理解でき、説明することができる。	教員のサポートだけでなく自ら辞書などを調べたりしながら、平易な英文の内容を理解できる。	教員のサポートを頼りに、平易な英文の内容を理解できる。	教員のサポートがあっても、平易な英文の内容を理解できない。
4	簡単な内容を英語で単文・重文・複文を遣って正確に書いたり、話したりすることができる。	教員のサポートや辞書などを頼りに、簡単な内容を英語の単文あるいは句で書く・話すことができる。	教員のサポートを頼りに、簡単な内容を英語の単文あるいは句で書くことができる。	教員のサポートがあっても、簡単な内容を英語の句で書くことができない。

令和5年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
基礎数学演習 (Exercises in Elementary Mathematics)		臼井智 (常勤)	1	1	後期 2 時間	選択
授業の概要	基礎数学 I, II の講義内容の理解を補うことを目的とし、問題演習を通して、数式の計算、方程式・不等式の解法、2 次関数や指数関数、対数関数、三角関数などの初等関数とそのグラフ、三角関数の加法定理とその活用法を習得する。					
授業の形態	演習					
授業の進め方	基本的事項の復習（講義）とその問題演習を行う。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 数式の展開、因数分解などの基礎的な数式変形ができる。 2. 基本的な方程式・不等式が解ける。 3. 2 次関数や分数関数、無理関数、指数関数、対数関数など初等関数の性質を理解し、そのグラフが描ける。 4. 三角関数の値が求められ、加法定理などを利用して様々な値が算出できる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
数式の計算（その 1）	整式の四則計算（加減乗除）ができる					2
数式の計算（その 2）	因数分解の基本技能「たすきがけ」「くくり出し」ができる					2
整式の計算（その 3）	因数分解の基本技能「因数定理」が利用できる					2
整式の計算（その 4）	分数式や無理式の四則計算（加減乗除）ができる					2
方程式と不等式（その 1）	2 次方程式と高次方程式が解ける					2
方程式と不等式（その 2）	分数方程式と無理方程式が解ける					2
方程式と不等式（その 3）	連立方程式が解ける					2
方程式と不等式（その 4）	2 次不等式が解ける					2
初等関数（その 1）	2 次関数のグラフが描ける					2
初等関数（その 2）	分数関数と無理関数のグラフが描ける					2
初等関数（その 3）	指数法則を理解し、指数計算ができる					2
初等関数（その 4）	対数関数の性質を理解し、対数計算ができる					2
三角関数（その 1）	三角関数の性質を理解し、その値が求められる					2
三角関数（その 2）	三角関数のグラフが描ける					2
三角関数（その 3）	加法定理を理解し、三角関数の値が求められる					2
						計 30
学業成績の評価方法	授業ごとに行う演習課題等や確認テストの点数により評価する。課題等および確認テストの点数の割合はそれぞれ 60 %, 40 % とする。なお、状況によっては追試を実施することがある。					
関連科目	基礎数学 I・基礎数学 II					
教科書・副読本	補助教材: 「新 基礎数学 改訂版」高遠節夫 (大日本図書)					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	置き換え法や因数定理を自ら選択して活用することにより、指定された3次以上の整式を因数分解することができる。	教科担当者や問題文の指示により、公式や置き換えによる方法、因数定理などを活用して、3次以上の整式を因数分解することができる	教科担当者や問題文の指示により、たすき掛け法を利用して、2次の整式を因数分解することができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、2次の整式を因数分解することができない
2	因数分解、解の公式、グラフの活用などの手法を自ら選択して、与えられた方程式や不等式の解を求めることができる	教科担当者や問題文の指示により、因数分解、解の公式、グラフを活用して、与えられた方程式や不等式の解を求めることができる	例題に示された解法を参考にして、方程式や不等式の解を求めることができる	例題に示された解法を参考にしても、方程式や不等式の解を求めることができない
3	関数のグラフを観察することを通して、初等的な関数(2次関数、分数関数、無理関数、指数関数、対数関数など)の最大値や最小値などを求めることができる	与えられた式を標準形に直して、2次関数、無理関数、分数関数、指数関数、対数関数のグラフを描くことができる	標準形で表された2次関数、無理関数、分数関数、指数関数、対数関数、三角関数のグラフを描くことができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、初等的な関数のグラフを描くことができない
4	加法定理を活用して、三角形の辺の比からは算出できない三角関数の値を求めることができる	単位円を活用して90度より大きい角に対する三角関数の値を求めることができる	三角形の辺の比を用いて、三角比(サイン、コサイン、タンジェント)の値を求めることができる	教科担当者の指示や例題を参考にしても、三角比を求めることができない

令和 5 年度 ものづくり工学科 一般科目 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
基礎英語演習 I (Practice of Basic English I)		大古田隆 (常勤)・武藤美咲 (非常勤)	1	1	後期 2 時間	選択
授業の概要	演習問題形式の教材を用いて、主に中学英語の復習を行う。					
授業の形態	演習					
授業の進め方	単元ごとにまとめられた文法項目を学習する。例文と解説、練習問題のセットを繰り返しながら、英文法の基本を身につける。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 英文法の基礎を習得できる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。					
講義の内容						
項目		目標				時間
ガイダンス・付録 1, 2 Unit 1		本講座の意味を理解する。辞書の使い方を理解する。文の種類を理解する。				2
Unit 2		文型と動詞を理解する				2
Unit 7		受動態を理解する。				2
Unit 12		比較表現を理解する				2
Unit 3		現在時制を過去時制を理解する。				2
Unit 4		進行形を未来の表現を理解する。				2
Unit 5		現在完了形を理解する。				2
Unit 6		助動詞を理解する。				2
Unit 8		不定詞を理解する。				2
Unit 9		不定詞を動名詞を理解する。				2
Unit 10		分詞を理解する。				2
Unit 11		関係代名詞を理解する。				2
Unit 13		接続詞、前置詞を理解する。				2
Unit 14		疑問視、名詞、冠詞、代名詞を理解する。				2
まとめ Extra 1～4		全体の復習を行う。				2
						計 30
学業成績の評価方法	試験および取組点（発表、提出物、小テストなど）を総合的に評価する。					
関連科目	英語 I					
教科書・副読本	教科書: 「Vision Quest 新高校英語入門」高校英語研究会・啓林館編集部 (啓林館), 参考書: 「Seed 総合英語 (四訂新版)」 (文英堂), その他: 適宜プリントを配布する。					
評価 (ルーブリック)						
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
1	自ら参考書などを活用しながら英文法の基礎を正確に習得でき、説明することができる。	教員のサポートだけでなく自ら参考著などを活用しながら、英文法の基礎を習得できる。	教員のサポートを頼りに、英文法の基礎を習得できる。	教員のサポートがあっても、英文法の基礎を習得できない。		

令和 5 年度 ものづくり工学科 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
情報リテラシー (Information Literacy)		古屋友和 (常勤/実務)・田代裕子 (非常勤/実務)	1	1	前期 2 時間	必修
授業の概要	コンピュータの基本操作 (ファイル操作、タイピング等)、ワードプロセッサソフトウェア、表計算ソフトウェア、インターネットでの情報検索、プレゼンテーションソフトウェアを実習中心に学ぶことにより、工学実験実習や卒業研究で必要となる情報の収集・分析、文書の作成、プレゼンテーションを行えるようになることを目指す。また、情報社会におけるルールやマナーについても習得する。					
授業の形態	演習					
授業の進め方	情報センターの端末を使用し、実習を中心に学習する。授業の最後には、習得したソフトウェアの操作方法を駆使して、プレゼンテーションを全員が行う。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 情報機器の機能を知る。 2. 情報機器によるコミュニケーションツールを使用できる。 3. 情報社会における法と倫理を理解する。 4. 情報セキュリティの重要性を学び、個人が行う対策を知る。 5. 情報社会における AI・データサイエンスの役割を知る。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
導入・コンピュータの操作	リテラシーの基本を理解し、OS 操作法、アプリケーションソフトの操作を理解する。					2
タッチタイピング	タッチタイピングの基本を理解する。					2
ワープロ	ワープロの操作法を理解し、タッチタイピング入力によりワープロによる文章入力能力を習得する。					4
表計算とグラフ処理	表計算ソフトの操作方法を知り、表計算によるシミュレーションやグラフ作成の手法を理解する。					6
情報モラル	法令遵守の規範に基づく情報倫理、情報セキュリティを含めた個人情報管理の大切さを理解する。					4
プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーションを理解し、プレゼンテーションの操作方法と効果的な利用法を理解する。					4
プレゼン準備	データを活用した定量的な調査とプレゼンテーションの準備を行い、データ活用・発表資料作成の基本能力を習得する。					4
プレゼン発表	プレゼンテーションを行い、基本的なプレゼンテーション能力を習得する。					4
						計 30
学業成績の評価方法	プレゼンテーション課題：その他の課題=1:1					
関連科目						
教科書・副読本	教科書: 「30 時間アカデミック Office2019」 杉本くみ子、大澤栄子 (実教出版)・「2023 事例でわかる情報モラル&セキュリティ」 実教出版編修部 (実教出版)					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	配置が適切で読みやすく、かつ論理的で説得力のある文章を作成できる。また、関数とコピー&ペーストを使って、短時間で見やすい表を作成できる。	文字サイズ、フォント、インデント、空行を適切に選び、読みやすく文章を配置できる。また、罫線、背景色、フォントを適切に選び、見やすい表を作成出来る。	ワープロソフトで文字や画像を入力できる。また、表計算ソフトでセルに文字を入力できる。	ソフトが起動できないか、文字や画像を入力できない。または、セルに文字を入力できない。
2	ソフトにより資料を作成し、分かり易いプレゼンテーションできる。また、他者と自身に(経済的、精神的)損害を与えないように、SNS アプリ、メーラー、ウェブブラウザを使用できる。	ソフトにより資料を作成し、プレゼンテーションできる。また、他者と自身の個人情報を守り、SNS アプリ、メーラー、ウェブブラウザを使用できる。	ソフトを起動し、スライドに文字と画像を入力できる。また、メーラー、ウェブブラウザを起動できる。	スライドに文字や画像を入力できない。または、メーラーかウェブブラウザを起動できない。
3	情報社会における法と倫理を理解し、的確に説明できる。	情報社会における法と倫理を理解し、説明できる。	情報社会における法と倫理を理解している。	情報社会における法と倫理を理解していない。
4	情報セキュリティの重要性和個人が行う対策について理解し、的確に説明できる。	情報セキュリティの重要性和個人が行う対策について理解し、説明できる。	情報セキュリティの重要性和個人が行う対策について理解している。	情報セキュリティの重要性和個人が行う対策について理解していない。
5	情報社会における AI・データサイエンスの役割を複数の観点から理解し、的確に説明できる。	情報社会における AI・データサイエンスの役割を理解し、説明できる。	情報社会における AI・データサイエンスの役割を理解している。	情報社会における AI・データサイエンスの役割を理解していない。

令和 5 年度 ものづくり工学科 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
プログラミング基礎 (Foundation of Computer Programming)			1	1	半期 2 時間	必修
授業の概要	本講義ではプログラミングの基礎について学ぶ。20 世紀末に情報革命が起き、コンピュータが社会に広く普及した。計算機などの種々の処理を実行することにより、コンピュータは有用な機能を提供し、人々の生活を支えている。本講義では社会の中でコンピュータがどのように利用されているかについて触れる。コンピュータに実行させたい処理内容を一つ一つ記述していく作業のことをプログラミングという。プログラミングでは専用の言語を用いる。本講義では Python 言語を用いてプログラミングの演習を行い、基礎的なプログラミング技術の修得を目指す。					
授業の形態	演習					
授業の進め方	はじめに教員は前回の演習の評価についてコメントする。次に今回の学習内容を解説する。最後に学生はプログラミング課題に取り組む。受講者に求められるもっとも重要な行動は以下の 2 点である。教員の解説を注意深く聴くこと、自主的にプログラミング課題に取り組み、これを完成させること。 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. プログラム作成の基本的な流れを知る。 2. 基本の制御構造を用いたプログラムを作成できる。 3. データ処理をするアプリケーションプログラムを作成できる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
導入	授業概要、コンピュータの基本構造、コンピュータと社会との関わりについて知り、この授業の意義について理解する。					2
プログラミングを用いた演算	変数の利用や四則演算など、基本的なプログラムを Python 言語で記述できる。					6
入出力とプログラミングの流れ	データの入力及び処理結果の出力を Python 言語で記述でき、プログラミングの流れを理解することができる。					6
条件分岐	条件分岐に関する Python 言語プログラムを読むことができ、条件に基づいて処理を記述することができる。					4
繰り返し	繰り返しに関する Python 言語プログラミングを読むことができ、繰り返し処理を記述することができる。					4
総合プログラミング	これまで学んだ技術を総合的に利用して、アルゴリズムの規定された基本プログラムを Python 言語で実装できる					6
まとめ	これまでの授業内容を振り返り、プログラミングに対する理解を深める。					2
						計 30
学業成績の評価方法	定期試験または総合課題（30％）、及び課題（70％）で評価する。					
関連科目	情報リテラシー・データサイエンス概論					
教科書・副読本	その他: プリントを使用					
評価 (ルーブリック)						
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
1	Python 言語を用いた高度な基本プログラムを読むことができる。	Python 言語を用いた基本プログラムを読むことができる。	Python 言語を用いた簡単な基本プログラムを読むことができる。	Python 言語を用いた基本プログラムを読むことができない。		
2						
3						

令和5年度 ものづくり工学科 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
基礎電気工学 (Basic Electrical Engineering)		設楽勇 (常勤)・高田拓 (常勤)	1	1	半期 2 時間	必修
授業の概要	電気を利用する上で必要となる、基礎知識（電気の基本原理や電気回路に関する諸法則等）を学ぶ					
授業の形態	講義					
授業の進め方	講義を中心として、理解を深めるために演習を取り入れる 予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 電圧、電流、抵抗について説明できる。 2. 抵抗の直並列回路での電圧、電流を計算できる。 3. 電気エネルギー（電力や熱）の計算ができる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
ガイダンス						2
電流と電圧	物質が原子核と電子からなること、電子の流れが電流であること、その電流を流すための起電力や電位・電圧について理解すること					2
電気回路とオームの法則	基本的な電気回路について理解すること オームの法則を利用し、電圧・電流を計算できること					4
直列回路、並列回路の計算	直流の直列・並列回路での合成抵抗やオームの法則の計算ができること					6
直並列回路の計算	直流の直並列での合成抵抗やオームの法則の計算ができること					6
ホイートストンブリッジ	ホイートストンブリッジの性質を理解する					2
電流の作用と電力	電流作用の一つである発熱作用について理解すること 電気エネルギー（電力、電力量）について理解すること					4
抵抗の性質	抵抗の形状による特性、温度変化による特性について理解すること					4
					計 30	
学業成績の評価方法	2 回の定期試験の得点と、授業への取組状況から総合的に決定する。定期試験の点数、取組状況の比率は 7 : 3 とする。また、成績不良者には追試を実施することがある。					
関連科目						
教科書・副読本	教科書: 「電気回路 1 (検定教科書)」小川義雄、加藤誠一、粉川昌巳 (実教出版)					
評価 (ルーブリック)						
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
1	電圧、電流、抵抗について十分かつ正確に説明できる。	電圧、電流、抵抗について説明できる。	電圧、電流、抵抗についてほぼ説明できる。	電圧、電流、抵抗について説明できない。		
2	抵抗の直並列回路での電圧、電流を正確に計算できる。	抵抗の直並列回路での電圧、電流が計算できる。	抵抗の直並列回路での電圧、電流の計算に取り組める。	抵抗の直並列回路での電圧、電流の計算に取り組めない。		
3	電気エネルギー（電力や熱）の計算を正確にできる。	電気エネルギー（電力や熱）の計算ができる。	電気エネルギー（電力や熱）の計算に取り組める。	電気エネルギー（電力や熱）の計算に取り組めない。		

令和 5 年度 ものづくり工学科 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
基礎製図 (Engineering Drafting)		瀬山夏彦 (常勤)・喜多村拓 (常勤)・阿部賢一 (非常勤)	1	1	前期 2 時間	必修
授業の概要	技術者として必要な図面を作成し理解する製図技術の基礎を修得する。					
授業の形態	演習					
授業の進め方	講義及び手描きの製図演習, C A D室でのC A D演習を行う。また、理解確認のための小テストを行う。半期、2時間15回で実施する。製図演習では、製図道具、教科書と副読本を使用するので、必ず持参すること。忘れた場合、所定の演習ができない場合がある。予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. 製図の基本的なきまりを理解できる 2. 図面を読み取り、品物の形状を理解したり、逆に品物の形状を図面化できる 3. 手書き製図, CAD 製図の基本的な作業ができる					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
ガイダンス	授業の進行について理解している。					2
製図の基本 I	製図に使う道具について、教科書を用いて自習し、使い方を理解している。					2
製図の基本 II	製図に使用する器具の名称と使い方を理解し、直線・曲線や数字や記号を正しく図面に記入できる。					4
製図の基本 III	投影法の考え方を理解し、図面から立体的な形状を理解できる、あるいは逆に立体の形状を図面に変換することができる。					4
製図の基本 IV	寸法記入法を理解し、図面に正しく寸法を記入できる。					2
= 中間試験 =	製図の基本的なルールについて、各人の理解度を確認する。					2
製図の基本 V	機械図面の模写を行い、これまでの学習内容を用いて図面を正しく描くことができる。					8
C A D製図の基本 I	CAD 製図の概要を理解し、CAD システムの基本的な操作ができる。					2
C A D製図の基本 II	CAD システムを使用して簡単な図形や図面を作成し、CAD 製図における一連の操作を体験する。					2
電気製図の基礎	電気製図に使用する記号を理解し、簡単な回路図を描くことができる。					2
						計 30
学業成績の評価方法	授業中の作業態度 (30%), 提出された課題の成績 (40%), 定期試験 (30%) により評価を行う。ただし正当な事由による欠席については補講を行う。なお、課題は必ず提出されていること。					
関連科目						
教科書・副読本	教科書: 「機械製図 (検定教科書)」 (実教出版), 副読本: 「基礎製図練習ノート」長澤貞夫、長澤教夫、関口剛 (実教出版), その他: この授業で使用する教科書は、進級先のコースによっては今後でも使用することがある。					

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	製図の基本的な決まりやJIS規格の基本的な内容をよく理解しており、やや複雑な図面についても、規格にのっとった図面を制作することができる。相手に設計の意図を的確に伝えることができる。	製図の基本的な決まりや規格について理解しており、比較的単純な図面を制作し、相手に設計の意図を伝えることができる。	製図の最低限の決まりを理解しており、図面を使用して他人に機械部品の形状を伝えることができる。	JISに基づく図面を全く制作することができず、他人から見てその図面を判読することが困難である。
2	様々な投影法と投影図の理論の基本を理解し、それらに基づいて実際の機械部品を図面化したり、図面から機械部品の形状を完全に理解することができる。	投影法を理解し、様々な立体図形の空間的形狀を投影図に描き表したり、紙面上の投影図からその図形の空間的形狀を認識することができる。	単純な立体図形について、図面からその形状を認識したり、立体図形を紙面上に書き表すことができる。	図形を空間的に認識することができず、図面から正しい製品の形を認識したり、逆に製品の形を正しく紙上に描き取ることができない。
3	様々な製図道具の機能と正しい使用法を理解しており、製図の各場面においてそれらを適切に選択し使い分けることができる。また、CADシステムの基本的な使用法を理解しており、比較的単純な形状の機械部品について、実際の使用に耐える図面を制作することができる。	基本的な製図道具の機能を理解しており、正しい使用法でそれらを使用することができる。また、CAD用コンピュータの基本操作を正しく行うことができ、CADによる基本的な製図を行うことができる。	基本的な製図用具の機能を理解していて、それらを使用して図面を描くことができる。また、CAD用コンピュータの基本的な起動・終了・保存といった最も基本的な操作を理解しており、CADデータを生成することができる。	製図用具を機能を理解しておらず、それらを正しく取り扱うことができない。またCAD製図用のコンピュータ、およびソフトウェアの基本操作ができない。

令和 5 年度 ものづくり工学科 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
ものづくり実験実習 (Workshop Practice)		鈴木達夫 (常勤)・加藤航甫 (常勤)・山本広樹 (常勤)・高田拓 (常勤)・中林秀夫 (非常勤)・松本好生 (非常勤)・石坂勇毅 (非常勤)・木城哲治 (非常勤)・粉川昌巳 (非常勤)・阿部賢一 (非常勤)・坂本和貴 (非常勤)・澤田利夫 (非常勤)・鈴木和夫 (非常勤)・國分翔太 (非常勤)・相楽勝裕 (非常勤)・竹内篤 (非常勤)	1	4	通年 4 時間	必修
授業の概要		ものづくりの基礎となる機械加工実習，電気電子実習，情報・制御実習を体験する。				
授業の形態		実験・実習				
授業の進め方		各クラス班に分かれ，ローテーションにより実習を行う．1 年間ですべての実習を体験する．予習，復習を行い自学自習の習慣を身に着ける．予習，復習を行い自学自習の習慣を身につける．				
到達目標		1. 基本的な工作機械を正しく操作し、基礎的な加工ができる 2. 簡単な電気・電子回路を理解し製作ができる 3. コンピュータや通信ネットワークの基本構成を知り、ロボット制御プログラミングまたは、Web コンテンツの作成ができる。				
実務経験と授業内容との関連		なし				
学校教育目標との関係		D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。				
講義の内容						
項目		目標				時間
機械加工実習 ガイダンス・安全教育		機械加工実習の内容及び安全作業を理解する				4
旋盤作業または溶接・鋳造		旋盤による軸加工または溶接・鋳造作業				12
フライス作業または手仕上げ		フライス盤による六面体の製作または手仕上げ作業				12
電気電子実習 ガイダンス、テスター製作		テスターの製作および動作試験				12
直流電源装置製作		直流電源回路製作とケース加工				12
動作確認実験		製作した電源に負荷をつなぎ、動作を確認するとともにテスター等で特性を計測				4
作業総括						4
情報・制御実習 ガイダンス・基本知識の習得		ロボットまたはインターネットの基本構造を知る				20
動作及び確認		ロボットまたは Web サーバを動作させる				16
開発		競技ロボットまたは Web アプリケーションを作製（作成）する				20
作業総括						4
						計 120
学業成績の評価方法		取組み点（実習への参加状況）70 %，レポート（報告書）点 30 %とする．評価は実習分野ごとの平均 によって行う．なお，正当な理由による欠席の場合は，補習等を行うことがある．				
関連科目						
教科書・副読本		教科書: 「EV3 Classroom プログラミングガイド」アフレル (https://afrel.co.jp/product/ev3-text#_textProduct08) (アフレル)，その他: 本校で発行する実習テキストを使用する				

評価 (ルーブリック)				
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
1	旋盤・フライス盤を安全に自ら基礎的な加工が行える	旋盤・フライス盤を安全に教員の補助の下で基礎的な加工が行える	旋盤・フライス盤の使い方が分かる	旋盤・フライス盤の使用ができない
2	簡単な電気・電子回路を理解し、自主的に製作ができる	簡単な電気・電子回路を理解し、教員の指導の下で製作ができる	簡単な電気・電子回路を理解している	簡単な電気・電子回路を理解できていない
3	基本的なロボットまたは Web サーバの動作を理解し、自主的に競技ロボットまたは Web アプリケーションを作成ができる	基本的なロボットまたは Web サーバの動作を理解し、教員の指導の下で競技ロボットまたは Web アプリケーションを作成ができる	基本的なロボットまたは Web サーバの動作を理解している	Web サーバの動作を理解している基本的なロボットまたは Web サーバの動作を理解できていない

令和 5 年度 ものづくり工学科 シラバス

科目名		担当教員	学年	単位	開講時数	種別
データサイエンス概論 (Introduction of Data Science)		設楽勇 (常勤)	1	1	後期 2 時間	選択
授業の概要	Society5.0 の実現を目指す我が国にとって、データを集め、分析する能力は必要不可欠なものである。本科目はそれら能力を学んでいく学習過程の入門として位置づけられ、情報リテラシーやプログラミング基礎と連動させて、データサイエンス教育プログラムのリテラシーレベルに相当する知識や能力を培うことを目標としている。また、データサイエンスにおける統計・確率などの数学的項目についても、基本を習得することを目指す。					
授業の形態	講義					
授業の進め方	教員が作成した資料や、AI・データサイエンスに関する講義動画を用いながら学習内容を理解させる。また、分析に必要な数学的知識を教え、活用できるように演習を行う。更には、Excel や Python 等のデータ処理ソフトを用いて、実データの可視化、及び処理が可能なプログラミング演習を行う。これら基本事項の能力は課題を通じて身につけさせる。予習、復習を行い自学自習の習慣を身につける。					
到達目標	1. データ・AI がもたらす社会の変化や AI を活用したビジネス/サービスを知り、数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を理解することができる。 2. 基礎的な統計・確率の学習を通じて、データを読み解き、説明して、扱うための基本的な能力を身に着けることができる。					
実務経験と授業内容との関連	なし					
学校教育目標との関係	D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。					
講義の内容						
項目	目標					時間
データサイエンスの活用	Society5.0 や AI の発展を理解し、本強化で学ぶデータサイエンスを活用可能な分野を説明できる。					2
データを扱う上での倫理	データや AI 利活用で重要となる ELSI (倫理的, 法的, 社会的課題) を学び、実際の活動で遵守することができる。					4
データの特徴を知る (統計)	データに対する統計処理の基本を学び、統計から得られた情報から指針を導き出すことができる。					4
データの頻度を知る (確率)	各種データが持つ発生頻度の概念を理解して表現することができる。					6
データを処理する	収集された実データにおける前処理 (データクレンジング) を理解し、ソフトウェアを用いて実施することができる。					4
データを分析する	前処理後のデータを読み込み、統計や確率などの処理をソフトウェアを用いて実施することができる。					4
データを可視化する	前処理後のデータを読み込み、ソフトウェアを用いて可視化をすることができる。					4
まとめ	データサイエンスにおけるリテラシーレベルの知識・技能を習得できる。					2
						計 30
学業成績の評価方法	定期試験とレポート (80 %), また適宜実施する課題 (20 %) で評価する。					
関連科目						
教科書・副読本	その他: 本校作成のプリントを配布する					
評価 (ルーブリック)						
到達目標	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	ぎりぎりの到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
1	数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を説明して、日常生活への応用を議論することができる。	数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を説明して、活用されている事例も含めて説明することができる。	数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を説明することができる。	数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義が説明できない。		
2	基礎的な統計・確率の技術を用いて、データの特性を把握した上で、様々な傾向分析を行うことができる。	基礎的な統計・確率の技術を用いて、データの特性を説明することができる。	基礎的な統計・確率の技術を用いて、データの特性を把握することができる。	基礎的な統計・確率の技術を用いて、データの特性を把握することができない。		